

アジア・アフリカ図書館だより

平成27年6月創刊号

特別展 「千夜一夜物語＝アラビアン・ナイトの世界」 始まる

—パネル展示と現物展示で—

アジア・アフリカ図書館では、活性化を図るため、特別展「千夜一夜物語（アラビアンナイトの世界）」を始めました。それは当館にこの種の図書各国版など60種以上を所蔵していること、昨今イスラーム世界が注目されていることなどからです。特別展は、パネル展示と書架を使った現物展示からできています。壁面には、アラビアンナイトの生い立ちや物語をパネルを用いてわかりやすく説明していますし、書架には当館所蔵のアラビアンナイトの英語版やアラビア語版などの珍しい本を展示しています。場所は、2階の図書館に入ってすぐの受付正面の壁面です。

図書館にはアラブ関係の本も多数所蔵しており、また、その他のアジア、アフリカの国々について日本語で書かれた本も閲覧、貸出できます。集密書庫にはア

ラビア語などアジア・アフリカ各種の原書も揃っており、お申し出があればいつでも閲覧出来ます。静かな住宅街の中にある異文化空間のようなアジア・アフリカ図書館で、これらの世界や文化に触れる旅に出てみませんか。



<図書館長あいさつ>

歴史と伝統を生かし新たな図書館像を目指す

アジア・アフリカ図書館は、1957年「郭沫若文庫」建設を機に開設され、アジア・アフリカ世界との文化交流や協力を進め長い歴史と伝統を持っています。

これまで、斯学の泰斗として知られる矢島文夫・西江雅之先生が館長をつとめられました。このたび、私とその重責を負うことになりました。

一昨秋、新装成った当館は、従来の事業を引き継ぐとともに新たな図書館像を目指します。三鷹市とのパートナーシップ協定に基づいて市民にも公開し、「郭沫若文庫」の図書や諸資料を市立南部図書館に展示したり、両館共催の事業を行ったりして利用の普及を図っています。昨秋の開館1周年記念行事には多くの市民も参加して好評を博しました。

アジア・アフリカ図書館長

篠原 昭雄

当館では、毎年“アジア・アフリカを知る集い”を公開していますが、こしは「アラビアンナイトの世界」をテーマに特別展示を行い、さらに活性化を図ることにしました。

特別展示やアジア・アフリカの図書を通して中世イスラームの歴史や文化に触れるとともに、現代のアジア・アフリカ世界に親しむ手掛かりにいただければと期待しています。



特別展 「千夜一夜物語＝アラビアン・ナイトの世界」

8～9世紀ごろの世界

アラビアン・ナイトの舞台

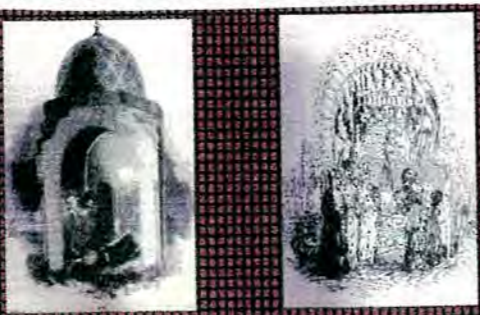


イスラームネットワーク

アッパース朝の都バグダードは、陸路・海路の国際貿易都市として建設された。このバグダードを中心に、イスラームの広域ネットワークが誕生し、インド洋の海上貿易も成長して、ムスリム商人が中東にまで来訪するようになった。



前世紀の二大帝国のうち、西方のイスラーム帝国であるアッパース朝が、すべてのムスリムの平等を徹底したため、さらに求心力が高まり、繁栄をきわめた。



大臣ヌール・ディーンとシャムス・ディーンの物語
「The Thousand & One Nights: Edward William Lane 1839年; London, Charles Knight 発行」の挿絵



カマル・ウヅマーンとブドゥール姫の物語
「千夜一夜: 完訳アラビアンナイト(パートン版の翻訳) 1929年; 中央公論社発行」の挿絵



黒獲の馬
「Tausendundeine Nacht: 1964年; Verlag Carl Ueberreuter 発行」の挿絵



オーストリア
「Tausendundeine Nacht: 1964年; Wien Verlag Carl Ueberreuter 発行」のカバー



イギリス
「The Thousand & One Nights: Edward William Lane 1839 London, Charles Knight 発行」の挿絵



アラブ承文学から世界のアラビアンナイトへ
文語と口語のどちらともつかない中途半端な文体で書かれたアラビアンナイトは、文学者からは正当な文学としては認められず、また、エロティックな表現が多いためしばしば発禁扱いになったこともあり、アラブ世界での文学的存在は低かった。一方、ヨーロッパではフランス人アントワーヌ・ガランなどによる紹介で世界のアラビアンナイトとして広がっていった。しかし、オリエンタリズムと呼ばれるヨーロッパ人の東方趣味的な世界観に満ちていて、現代アラブ諸国から見ると自分たちのアイデンティティーとは異なっているものがある。ところが、西洋で生まれ変わったアラビアンナイトの進化はとどまるどころを知らず、アラビアンナイトの幻想的な物語が西洋の美術や文学に与えた影響は計り知れない。



日本
「アラビアンナイト物語」: 1919年; 国村書店発行
の化能書と表紙

イスラーム世界の成立から拡大

ムハンマド時代	570年	ムハンマド(マホメットともいう)、メッカに生まれる
	610年	ムハンマド、神の啓示を受け、預言者に
	622年	ムハンマド、メディーナに遷る 教団国家の建設(この年をイスラーム暦の元年にする)
	630年	ムハンマド、メッカを占領 [アラビア半島統一]
	632年	ムハンマド病没 正統カリフ時代始まる
正統カリフ時代		○イラク、シリア、エジプト征服
	642年	ニハーヴンドの戦い(ササン朝を破る) →651 ササン朝ペルシア滅亡
ウマイヤ朝	661年	アリー(第4代カリフ)暗殺
		○ムアウィヤ (位661~680)
	661年	アリーの死後、ウマイヤ朝創設、都:ダマスカス カリフを宣言
	711年	西哥特王国を滅ぼし、イベリア半島征服
	732年	トゥール・ポワティエ戦の戦い
		○アブー・アル・アッパース (位750~754)
	750年	ウマイヤ朝を滅ぼし、アッパース朝創設(750)
	751年	タラス河畔の戦い(唐を破り、中央アジアの支配者に) →中国の製紙法伝わる アラビア数字、ゼロの記号
	756年	後ウマイヤ朝成立 (アラビアン・ナイト) バグダード建設
		○ハールーン・アッラシード (位786~809)
		○イスラーム文化全盛期 バグダードの絶頂期
アッパース朝		天文学 ムスリム商人の活躍で航海術・暦学も発達 バグダード・ダマスカスに天文台 『医学叢書』ギリシア・アラビア医学の集大成
		○アラブ系
		○イラン、アフガニスタン系
		○トルコ系
		○ペルシア系
		○その他
	969年	カイロ建設
		○フワフ朝 (932~1062)
	946年	バグダード入城。アッパース朝の カリフから権力を奪う
		カラハン朝 (10世紀半ば~12世紀半ば)
		ガズナ朝 (962~1186)
		ホラズム朝 (1077~1231)
		○セルジューク朝 (1038~1194)
	1055年	バグダード入城 アッパース朝 カリフにスルタンの称号
		○アイユーブ朝 (1169~1250)
	1187年	十字軍からエルサレム奪回
		○マムルーク朝 (1250~1517)
	1258年	アッパース朝、モンゴルにより滅亡

児童文学から世界文学へ

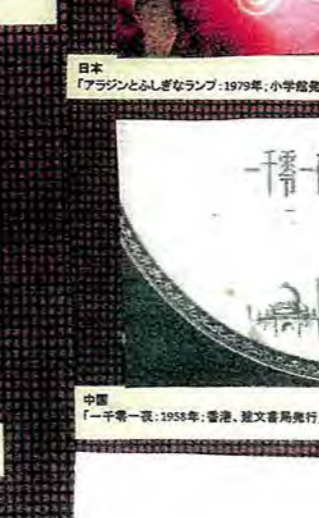
中世にはヨーロッパを上まわっていたイスラーム世界も、17世紀後半には勢力が弱まり、ヨーロッパとの力関係が逆転した。ヨーロッパの植民地支配が始まるようになると、アラビアンナイトはイスラームの文化を知る上での道具になっていった。一方、脅威(きょうい)ではなくなくなったアラブの世界は、ヨーロッパ人からはむしろ幻想的な憧れの対象となって、オリエンタリズムにつながっていった。こうした流れの中でエドワード・レインの英語訳(1838-40)・リチャード・パートンの英語訳(1885-88)やマルドリユスの仏語訳(1889-1904)の本などが刊行され、アラビアンナイトは、児童のための文学から大人の鑑賞に堪(た)へる世界文学へと発展した。



「Alf Layla Wa Layla 1999年; Beirut Dar Sader 発行」の表紙

アラビアンナイトの起源と生い立ち

アラビアンナイト(千夜一夜物語)の母体は、原典であるササン朝ペルシア(226~651)後期の「ハザール・アフサーブ」(千物語)がアッパース朝の初期にアラビア語に訳されたものである。9世紀のバグダード(イラク)で誕生したとされているのはそのためである。街角やコーヒーハウスなどで語り部による口頭伝承として語り継がれた。一方で印刷による写本もつくられたが、その後バグダードやカイロで多数の談話が加えられ、16世紀ごろに現在の形ができた。750年に起こったアッパース朝は、その最盛期には現在の中東や北アフリカまで広がり、バグダードを首都として栄えた。756年にイベリア半島(現在のスペイン)に起こった後ウマイヤ朝をさめると、イスラーム世界はヨーロッパにまで及び、その文化は誇耀(きょうごう)を極め、ヨーロッパ文化をはるかに上まわっていた。このイスラーム文化に培われ咲き出した華(はな)こそ「千夜一夜物語」である。



「Тысяча и одна ночь: 1974年; Детская лит-ра 発行」の挿絵

アラビアンナイトの起源と生い立ち

アラビアンナイトは、話の初めから結の語までの間に第一夜、第二夜というように徐々に新しい話が語り継がれる形式(枠)の物語の代表的なものであり、近代文学に大きな影響を与えた。大臣の娘シェヘラザードが、世の女性に対する激しい憎しみを持つササン朝ペルシアのシャフリヤール王に、千一夜掛って物語を構成になっている。妻をめぐっては空襲に処刑していたシャフリヤール王は、処刑されないように毎夜語り続けるシェヘラザードの興味深い話を千一夜聞く。この話は、インドやイランに起源をもつものもあり、舞台はイスラーム商人などが交易するペルシア湾からインド洋、南シナ海にまでおよんでいる。シェヘラザードの運命については版によって異なるが、最後にシャフリヤールが悔い改めてシェヘラザードは助かるというのが一般的である。



「Тысяча и одна ночь: 1974年; Детская лит-ра 発行」の挿絵

シェヘラザードとシャフリヤール王

アラビアンナイトは、話の初めから結の語までの間に第一夜、第二夜というように徐々に新しい話が語り継がれる形式(枠)の物語の代表的なものであり、近代文学に大きな影響を与えた。大臣の娘シェヘラザードが、世の女性に対する激しい憎しみを持つササン朝ペルシアのシャフリヤール王に、千一夜掛って物語を構成になっている。妻をめぐっては空襲に処刑していたシャフリヤール王は、処刑されないように毎夜語り続けるシェヘラザードの興味深い話を千一夜聞く。この話は、インドやイランに起源をもつものもあり、舞台はイスラーム商人などが交易するペルシア湾からインド洋、南シナ海にまでおよんでいる。シェヘラザードの運命については版によって異なるが、最後にシャフリヤールが悔い改めてシェヘラザードは助かるというのが一般的である。

アラビアンナイトの起源と生い立ち

アラビアンナイト(千夜一夜物語)の母体は、原典であるササン朝ペルシア(226~651)後期の「ハザール・アフサーブ」(千物語)がアッパース朝の初期にアラビア語に訳されたものである。9世紀のバグダード(イラク)で誕生したとされているのはそのためである。街角やコーヒーハウスなどで語り部による口頭伝承として語り継がれた。一方で印刷による写本もつくられたが、その後バグダードやカイロで多数の談話が加えられ、16世紀ごろに現在の形ができた。750年に起こったアッパース朝は、その最盛期には現在の中東や北アフリカまで広がり、バグダードを首都として栄えた。756年にイベリア半島(現在のスペイン)に起こった後ウマイヤ朝をさめると、イスラーム世界はヨーロッパにまで及び、その文化は誇耀(きょうごう)を極め、ヨーロッパ文化をはるかに上まわっていた。このイスラーム文化に培われ咲き出した華(はな)こそ「千夜一夜物語」である。

アリババと四十人の盗賊

マルジャーナは盗賊が隠れていた油壺に油を注ぎ入れた。「国立民族学博物館提供」

マルジャーナは家にやってきたのが盗賊の首領だと見抜き、踊り子に扮して見事な踊りを披露する。「国立民族学博物館提供」

シンドバッドの冒険

私たちが置き去りにされた島には野蛮な巨人が住んでいて、仲間たちを食べてしまった。「The Thousand & One Nights: Edward William Lane 1839年; London, Charles Knight 発行」の挿絵

空が暗くなったと思うと、巨大なワニが現れた。「国立民族学博物館提供」

アラジンと魔法のランプ

ランプをこすると、目の前に魔物が飛び出したので、母親はひどく驚いてしまった。

「Kitab Wasiat: ジャカルタ(インドネシア)、Pustaka Rakjat 発行」の表紙。右下の写真は開いた状態、飛び出す絵本になっている。

図書館情報 ～図書館の活動と近況～

アジア・アフリカ図書館は、アジア・アフリカ世界の情報に特化した専門図書館ですが、語学院生や研究者をはじめ市民の方々にも公開しています。最近の活動状況を紹介します。

特別展示

昨年は、「アジア・アフリカの文字」の企画展を行いました。2015年度は「アラビアンナイトの世界」と題して、アラビアンナイトの生い立ちや背景、児童文学や世界文学へ成長した過程などを壁面と書架において展示しています。

「アジア・アフリカを知る集い」

毎年秋季に「アジア・アフリカを知る集い」として講演会活動等を行っています。昨年は10月18日に第23回を行い、「信仰によって発展する現代社会：インドネシアとムスリム地域社会の形成」と題して阿久津正幸先生が講演され、市民も含め多くの参加がありました。

開館1周年記念行事

三鷹市立南部図書館と共催で、開館1周年記念行事が行われ、11月23日に開催されたチベット映画「ケサル大王」の上映会や語学院生が参加した「留学生と遊ぼう」には多くの市民や児童・生徒も参加して好評でした。



秋の図書館行事予定

今年も秋の「アジア・アフリカを知る集い」や「記念行事」などで「アラビアンナイト」にちなんだ催し（もよおし）を行う予定です。

古書のリサイクル市

年2回、図書館で古本のリサイクル市を実施し、多くの方が無料のリサイクル本を持ち帰られました。

陳芳怡さんの絵本原画展

「ケサル大王」の上映会に合わせて、当語学院の卒業生であり台湾で現在画家として活躍中の、陳芳怡さんの絵本原画展がエレベーターホールにて開催され、好評でした。

2014年度アジア・アフリカ図書館利用者数の推移



図書館では上記の行事に関連した図書も収集しており、これからも新しい図書を購入してより質の高いサービスを提供することとしています。なお、図書の貸出には利用登録が必要です。利用登録をした方には、随時行事のお知らせなどをお送りしますので、是非ご利用ください。

図書館利用案内

開館日：火・水・金・土・日曜日

（第3水曜日、年末・年始を除く）

開館時間：平日=12：00-17：00

土・日=9：30-17：00

さようなら西江雅之先生

アジア・アフリカ図書館と同語学院の経営母体である公益財団法人アジア・アフリカ文化財団理事で同図書館長の西江雅之先生が、6月14日すい臓がんで亡くなりました。享年77歳でした。

先生は、アフリカ言語研究を専門とした言語学・文化人類学の泰斗で、早稲田大学教授などを務め、84年には当財団の催す、第3回アジア・アフリカ賞を受賞しています。2007年6月にアジア・アフリカ図書館長に就任され、語学院アジア語学科生の講義や図書館蔵書の管理、新図書館へ移行にご尽力されました。

ここに先生のご生涯七十七年のご功績を偲び謹んで哀悼の意を表したいと思ひます。

平成27年6月

アジア・アフリカ文化財団：アジア・アフリカ図書館：アジア・アフリカ語学院

アジア・アフリカ文化財団経営 アジア・アフリカ図書館

〒181-0004 東京都三鷹市新川5-14-16 Tel:0422-44-4640 Fax:0422-46-5107